



防災無線の室内受信機の設置を

加藤 敏彦 議員

設置していく考えはない

市民協働部長

- ・防災情報を自動的に再生する。
- ・文字放送の機種もあり、聴覚障害者も利用できる。
- ・デジタル方式より設備費用がかからない。
- ・希望者に三千円で販売



▲豊田市の防災ラジオの特徴

市民協働部長
 の状況は。
 新たに高台を整備する考えはない。永和地区には、ボート8艇、救命胴衣32着が配備されている。

●その他の質問
 国民健康保険について

市民アンケートに「防災無線の音が聞こえない」「学校の屋上で放送しているが内容がわからない」など防災無線放送が聞こえないという声に対して市としてどのように対応しているか。

市民協働部長 聞こえづらいつきは自動再生放送（電話2610202）で確認してほしい。

佐織地区の方から「室内の防災受信機を設置してほしい」「以前あったように放送してほしい」という声が聞かれる。

豊田市では戸別受信機が撤去され、再び、住民

から戸別受信機を設置してほしいと市に要望が出され、市が防災ラジオを整備して申込みを開始した。

愛西市でもできないか。

市民協働部長 東日本大震災の被災地の方からラジオは防災情報を得る手段として非常に有効であったと聞いているが、現在、防災ラジオを整備していく考えはない。

水害対策として永和荘跡地に高台が整備されるが「他にも高台を確保してほしい」との声がある。

ボートや救命胴衣の整備



▲防災無線の屋外拡声器